
2021年度 町田市死亡小票分析報告書（概要版）

2021年10月
町田市いきいき生活部高齢者福祉課

目次

第1章 調査概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査方法	1
3. 分析に用いたデータ	1
4. 本分析における分析の枠組みと死亡の種類	2
5. 本分析に用いた死亡小票のデータ項目	4
6. 本報告書における定義	5
第2章 町田市の人口動態の見通し	6
1. 将来推計	6
2. 死亡者数の将来推計	8
3. 入院外来需要推計	9
4. 在宅療養患者数の将来推計（年齢階級別）	10
第3章 市内の医療施設の在宅療養支援診療所・病院の届出状況	11
1. 市内の病院病床数の状況	11
2. 市内の医療施設の在宅療養支援診療所・病院の届出状況	13
第4章 全死亡者と異状死の状況	15
1. 死亡場所別死亡者数の推移	15
2. 異状死の状況	17
3. 看取り死の推移	18
第5章 看取りの実態	19
1. 医療機関での看取り	19
2. 自宅での看取り	20
3. 施設（老人ホーム、老健）での看取り	21
第6章 将来死亡者数推計と在宅医療の提供体制	25
1. 推計の考え方	25
2. 推計における前提条件	25
3. 将来死亡者数推計結果	26
4. 2015年度報告書での推計死亡者数との比較	28
5. 2015年度報告書で2025年の目標とした医療提供体制と2020年実績の比較	29
6. 将来必要となる在宅医療提供体制の検討	30
第7章 まとめ	32

第1章 調査概要

1. 調査目的

町田市民の全死亡者の死亡診断書データや、市内の在宅医療提供体制データを解析することで、地域の在宅看取りの実態を明らかにする。さらに、将来において、病床での看取りが逼迫し、在宅へとより多くの療養患者、そして在宅看取りが溢れ出すことを想定し、いつ・どの程度の人数が、在宅での看取りが必要となる死亡者となるのかの推計を行う。

現時点の実態を把握し将来推計を行うことで、在宅医療提供体制の拡充を目的とした各種施策の立案に必要な基礎資料を作成することを目的とする。

2. 調査方法

厚生労働省が実施する人口動態調査¹の死亡票を町田市が独自に集計・分析した。独自集計であるため厚生労働省が公開する人口動態調査の死亡統計の結果とは誤差があることがある。

3. 分析に用いたデータ

2012年4月～2015年3月、2018年1月～2020年12月に死亡した町田市民を対象にした。2012年4月～2015年3月分については過年度の分析結果を用いた（図表1）。なお、厚生労働省への開示手続きの都合、過去分は年度単位、今回は暦年単位での分析であることに留意する必要がある。

また、町田市内の在宅関係医療機関については、関東信越厚生局の届出受理医療機関名簿（2021年1月時点）を用いた。

年	件数
2012年度	3,239件
2013年度	3,380件
2014年度	3,450件
2018年	3,878件
2019年	4,082件
2020年	4,065件

図表1 分析対象件数

¹ 人口動態調査については、以下の厚生労働省HPを参照のこと
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1b.html#01>

4. 本分析における分析の枠組みと死亡の種類

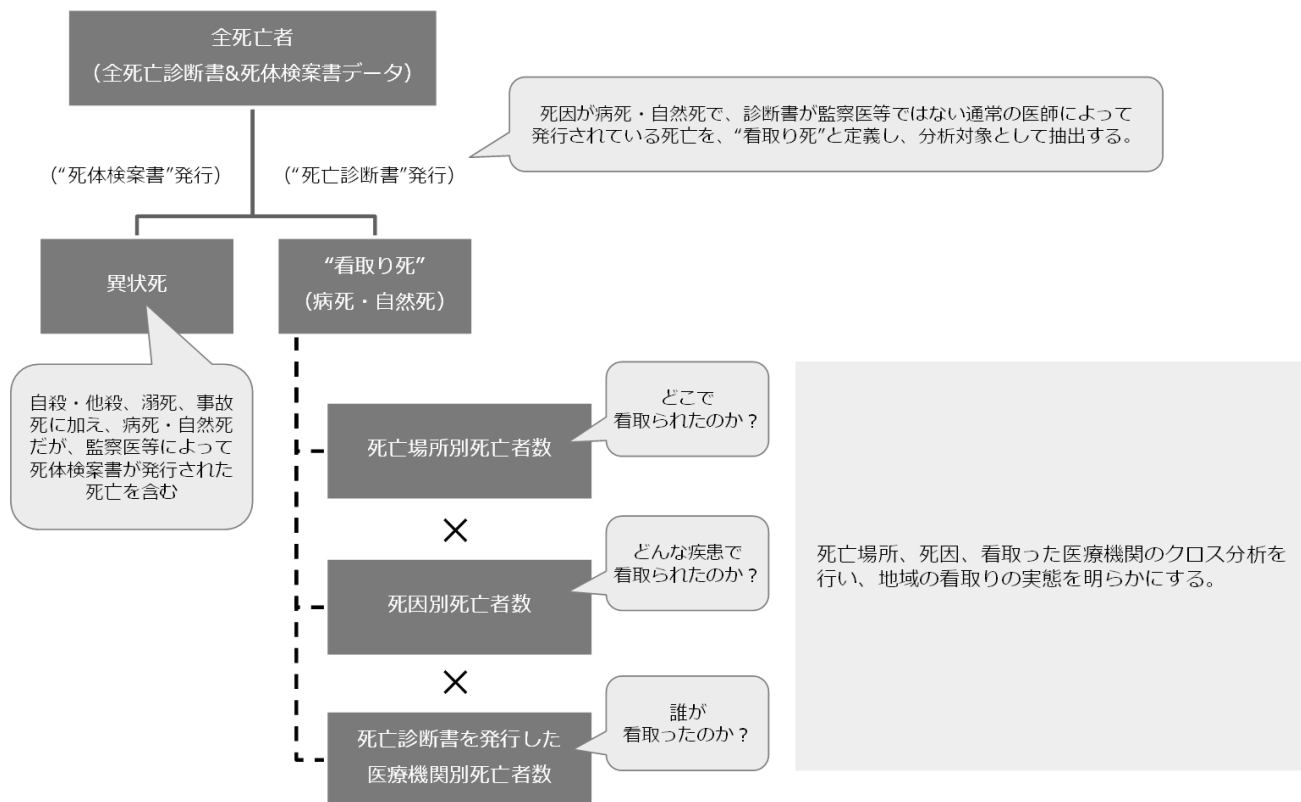
本分析では、死亡者を異状死、看取り死に区別して分析を行った。その上で、死亡場所、死因、死亡診断書（死体検案書）を発行した医療機関ごとに分析を行い、地域での看取りの実態を明らかにした（図表 2）。

また、本分析における死亡の種類は、先述したように「看取り死」と「異状死」に分けられる。「看取り死」は、死因の種類が病死・自然死であるもののうち、監察医²もしくは検案を担当している医師（多くの場合は警察嘱託医³）が死体検案書を発行したと推定されるものを除いた死亡とした。また、「異状死」は、看取り死に該当しない病死・自然死とそれ以外の死因の種類だった死亡（事故死など）とした（図表 3）。

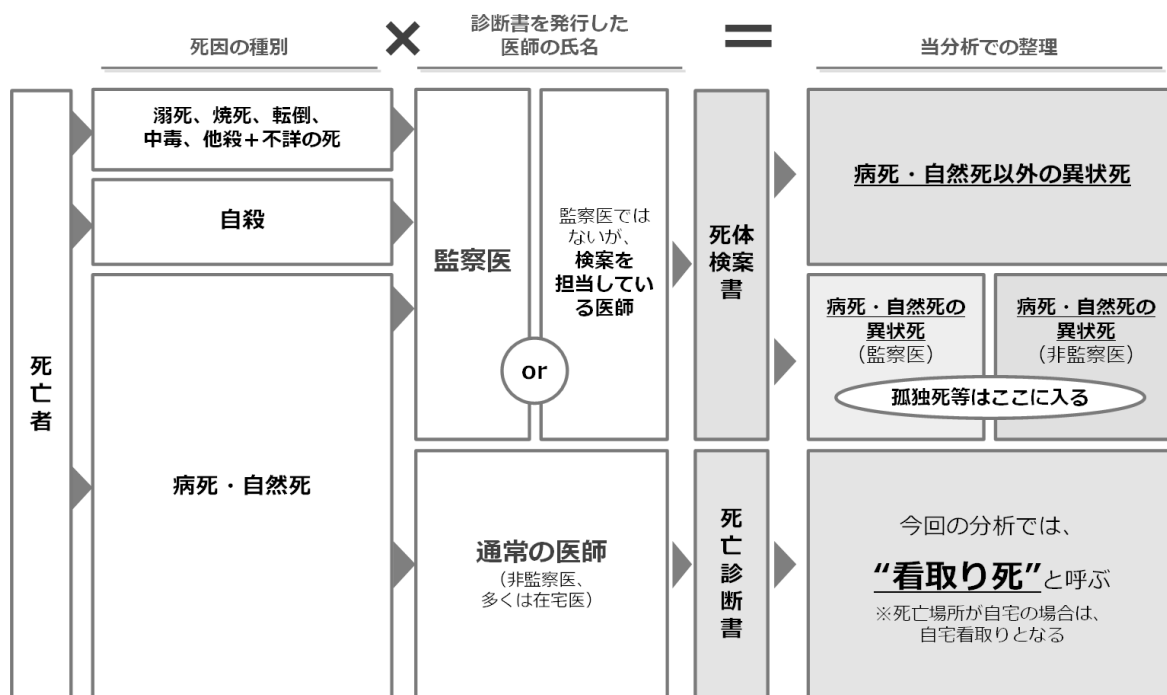
² 監察医とは、死因不明の死体を検案又は解剖して死因を明らかにすることにより公衆衛生の向上等に資することを目的として、監察医制度に基づいて置かれている医師を指す。監察医による検案又は解剖の対象となるのは、病死・自然死の一部（診療を受けずに死亡した場合、診療を受けたが原因が不明の場合など）、すべての外因死などが該当する（東京都福祉保健局 東京都監察医務院 異状死の届出の判断基準 <https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kansatsu/iryou.html>）。

³ 特に東京都には、監察医務院が設置されており、23 区内で発生した、すべての不自然死の検案・解剖を実施している（東京都福祉保健局 東京都監察医務院

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kansatsu/toukyoutokansatsuimu/a_kansatsu.html）。



図表 2 分析の枠組み



図表 3 死亡の種類

5. 本分析に用いた死亡小票のデータ項目

本分析では、死亡小票に含まれる項目の中から以下の項目（図表 4）を用いて分析をした。なお分析では、「死亡したところの種別」については、分析の精度を高めるために「死亡したところの名称」から種別を確認し再分類した。

項目	目的
性別	男女別の集計を行うため
生年月日	死亡時の年齢を特定するため
死亡したとき	死亡時の年齢、死亡年を特定するため
死亡した人の住所	住所別の分析を行うため
死亡したところの種別、名称	死亡場所の種類別の分析を行うため
死亡の原因	死因、死亡の分類を行うため
死因の種類	死亡の分類を行うため
施設の所在地又は医師の住所及び氏名	・死亡診断書・死体検案書を発行した機関名を特定するため ・「病死・自然死」と分類されたもののなかから、検案された確率が高い死亡者を特定するため
主要所見、その他特に付言すべきことがら、備考	・「病死・自然死」と分類されたもののなかから、検案された確率が高い死亡者を特定するため

図表 4 分析に利用した項目

6. 本報告書における定義

●看取り死・異状死

看取り死：病死・自然死のうち医師（監察医・警察嘱託医以外）が死亡診断書を発行したもの。なお本文中にある「看取り」も本定義に含む。

異状死：上記以外の病死・自然死のほか、交通事故等での死で、監察医・警察嘱託医が死体検案書を発行したもの。

●老人ホーム

老人ホーム：特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅（サ住）、グループホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム

●老健

老健：介護医療院⁴・介護老人保健施設

●医療機関看取り・在宅看取り・施設看取り

医療機関看取り：病院・診療所で死亡し、死亡診断書が発行されたもの

自宅看取り：自宅で死亡し、死亡診断書が発行されたもの

施設看取り：老健や老人ホームで死亡し死亡診断書が発行されたもの

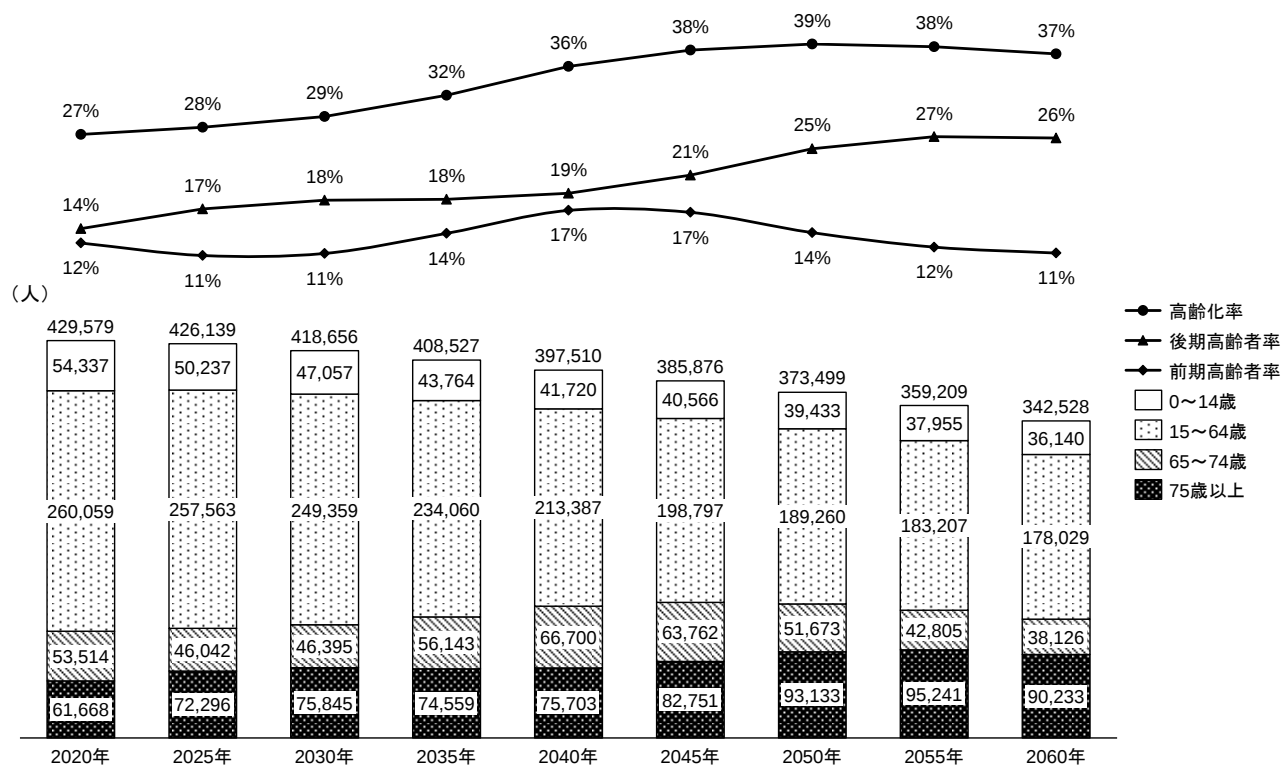
⁴ 2018 年度より、人口動態調査死亡小票の「死亡したところの種別」に変更があり、「介護老人保健施設」が「介護医療院・介護老人保健施設」に変更された。

第2章 町田市の人口動態の見通し

本章では、町田市の人口動態推計をもとに将来の死亡者数、医療需要の推計を行った。

1. 将来推計

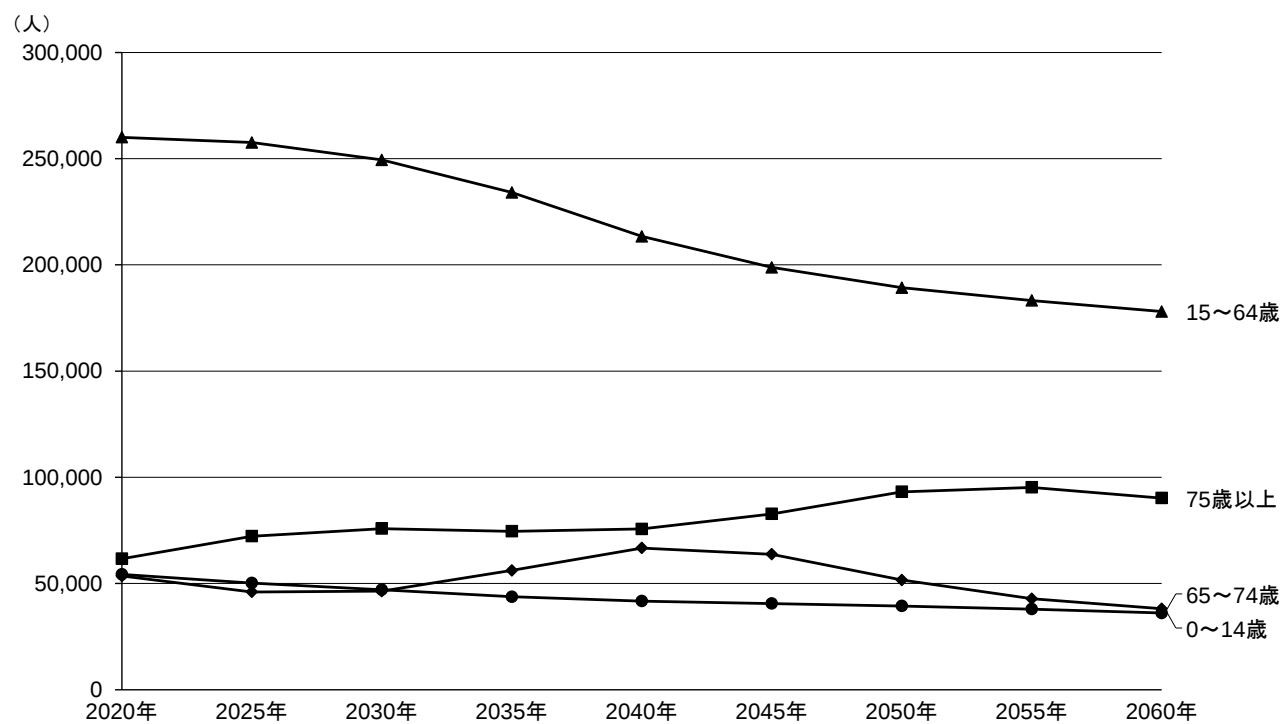
町田市の将来推計人口⁵によると、2020年以降、町田市の総人口は減少を続けると推計されている。年齢階級ごとにみると、75歳以上人口は2055年まで増加を続け、後期高齢者率の割合は27%に達する（図表5）。一方で、64歳以下人口は一貫して減少し続けると推計されている（図表6）。



図表5 将来人口推計

⁵ 町田市「将来人口推計」

(<https://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/miraidukurikenkyujo/katudounaiyou/syou-raijinnkousuikei.html>)

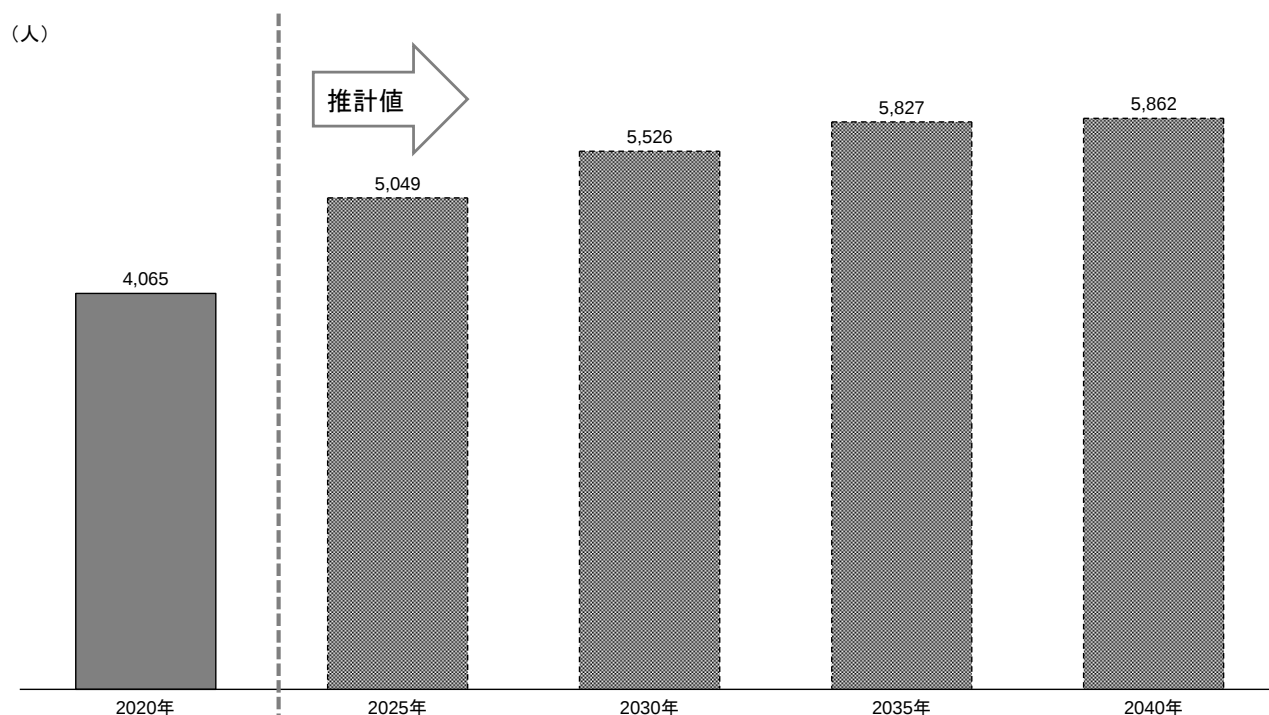


図表 6 年齢階級別の将来人口推計

2. 死亡者数の将来推計

町田市の将来人口推計と、国立社会保障・人口問題研究所が将来人口推計を行う際に使用する生残率⁶を組み合わせ、町田市における将来の死亡者数の推計を行った。なお、2020年の死亡者数は町田市の人口動態の実績値⁷による。

2020年に4,065人⁸だった死亡者数は、2040年まで増加を続け、5,862人に達すると推計される。



図表 7 死亡者数の将来推計

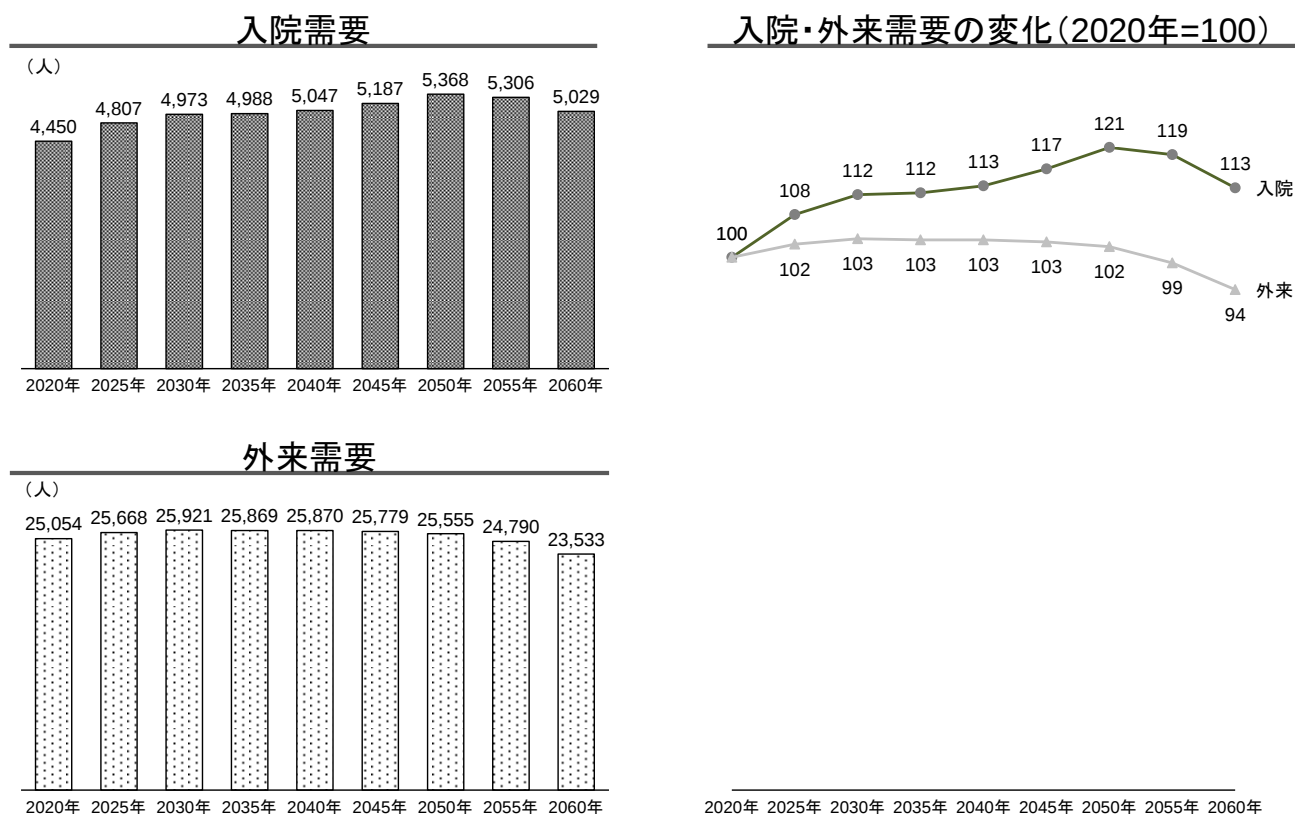
⁶ 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計（平成30年（2018）年推計 全都道府県・市区町村別、男女・年齢（5歳）階級別将来の生残率」の町田市における生残率

⁷ 町田市「町田市人口増減の内訳（出生、死亡、転入、転出等）2020年」
(<https://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/toukei/setai/doutai.html>)

⁸ 本年度の死亡小票分析の結果による

3. 入院外来需要推計

町田市の将来人口推計と、患者調査⁹の推計患者数を組み合わせて、町田市における将来の入院・外来患者数の推計を行った。入院需要は 2020 年の 4,450 人から 2050 年までに 5,368 人まで増加、2050 年には 2020 年の 1.2 倍になると推計されている。一方、外来需要は 2030 年まで増加し続けて 25,921 人に達し、その後減少すると推計されている（図表 8）。



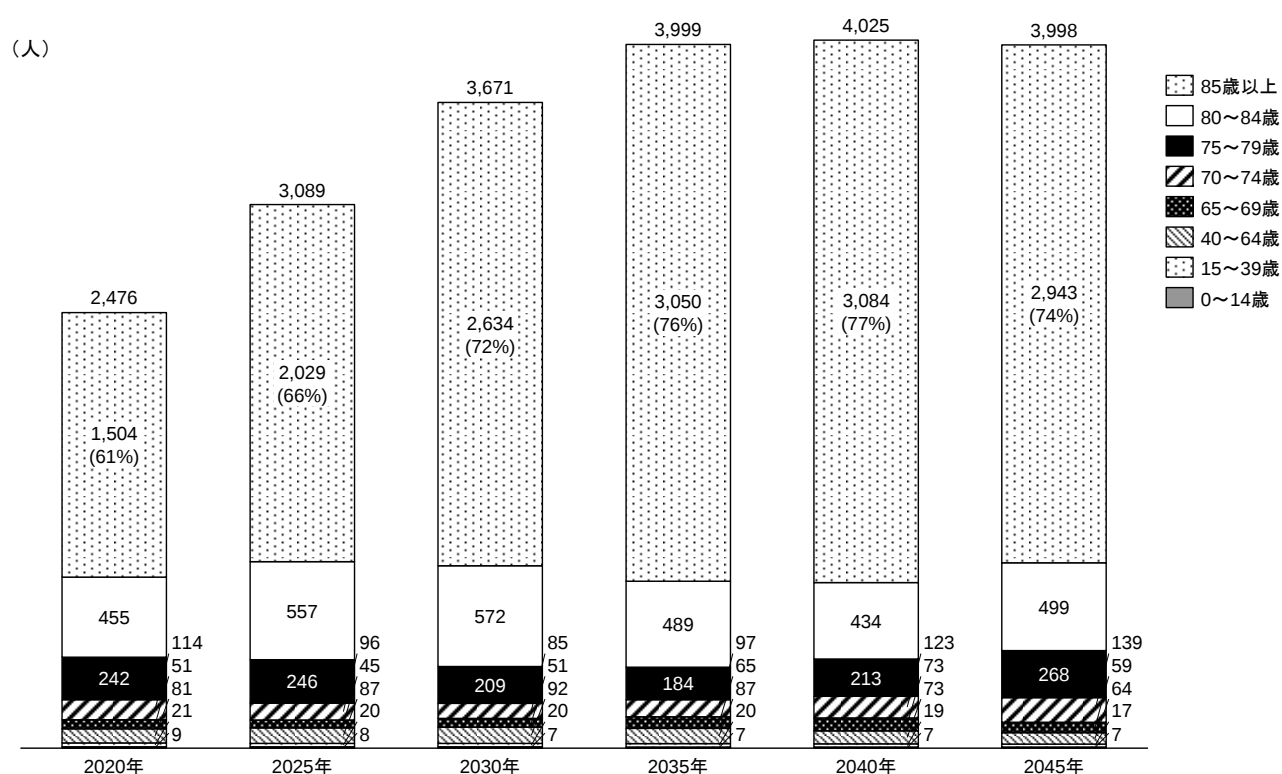
図表 8 入院・外来需要の将来推計

⁹ 厚生労働省「平成 29 年患者調査 推計患者数（患者所在地別）」

4. 在宅療養患者数の将来推計（年齢階級別）

町田市の将来人口推計と、在宅医療の受療率¹⁰を組み合わせ、町田市における将来の在宅療養患者数の推計を行った。

2020年から2035年にかけて、在宅療養患者数は2,476人から3,999人まで増加し、2035年以降は横ばいで推移すると推計された。増加の要因としては、85歳以上の患者数の増加による影響が大きい。また、年齢別の患者数の割合をみると、85歳以上が最も多く、2020年の61%から2040年には77%まで増加すると推計されている（図表9）。



図表 9 在宅療養患者数の将来推計

¹⁰ 厚生労働省「令和元年社会医療診療行為別統計」の年齢階級別の在宅患者訪問診療料算定件数と総務省「年齢階級別人口推計（2019年10月1日）」をもとに5歳階級ごとの受療率を算出し、その数値を町田市の5歳階級別の将来人口推計の結果に掛け合わせて算出した

第3章 市内の医療施設の在宅療養支援診療所・病院¹¹の届出状況

1. 市内の病院病床数の状況

2021年3月時点¹²の町田市内の病院の病床数は図表10の通り。

#	施設名	許可病床数				回復期リハビリテーション病棟		認知症病棟
		精神	療養	一般	合計	一般	療養	
1	町田市民病院	0	0	447	447	0	0	0
2	飛鳥病院	261	0	0	261	0	0	0
3	医療法人社団 芙蓉会 ふよう病院	0	164	0	164	0	0	0
4	医療法人社団 正心会 よしの病院	166	0	0	166	0	0	0
5	医療法人社団 鶴永会 鶴が丘ガーデンホスピタル	200	0	0	200	0	0	0
6	医療法人社団 史世会 町田胃腸病院	0	0	50	50	0	0	0
7	医療法人社団 三医会 鶴川記念病院	0	120	60	180	0	0	0
8	医療法人財団 明理会 鶴川サナトリウム病院	379	127	81	587	0	0	0
9	あけぼの病院	0	49	49	98	0	0	0
10	医療法人社団 鶴川さくら会 鶴川さくら病院	118	0	0	118	0	0	0
11	一般財団法人 ひふみ会 まちだ丘の上病院	0	78	0	78	0	0	0
12	医療法人社団 幸隆会 多摩丘陵病院	0	117	199	316	0	117	117
13	医療法人社団 松友会 上相原病院	0	92	0	92	0	0	0
14	医療法人社団 創生会 町田病院	0	0	120	120	0	0	0
15	医療法人社団 天紀会 こころのホスピタル町田	378	0	0	378	0	0	0
16	社会医療法人社団 正志会 南町田病院	0	0	222	222	34	0	34
17	医療法人社団 慶泉会 町田慶泉病院	0	94	61	155	0	47	47
18	ふれあい町田ホスピタル	0	0	199	199	50	0	50
19	横浜町田関節脊椎病院	0	0	42	42	0	0	0
20	医療法人社団 三医会 鶴川リハビリテーション病院	0	120	0	120	0	30	30
合計		1,502	961	1,530	3,993	84	194	278

図表 10 町田市内の病院病床数の状況（2021年3月）

¹¹ 在宅療養支援診療所・病院とは、在宅医療を提供する医療機関であって、自宅や施設で療養をする方を対象に24時間対応（往診や緊急時の電話対応）の体制を整えているものを指す。

¹² 厚生労働省関東信越厚生局「届出受理医療機関名簿（令和3年3月時点）」、「保険医療機関名簿（令和3年3月時点）」

#	施設名	許可病床数				回復期リハビリ テーション病床		認知症 病床
		精神	療養	一般	合計	一般	療養	
1	町田市民病院		0	0	447	447	0	0
2	飛鳥病院		261	0	0	261	0	0
3	医療法人社団 伊藤病院		0	0	56	56	0	0
4	医療法人社団 芙蓉会 ふよう病院		0	274	0	274	0	0
5	医療法人社団 正心会 よしの病院		166	0	0	166	0	0
6	医療法人社団 明照会 常盤病院		90	0	0	90	0	0
7	医療法人社団 鶴永会 鶴が丘ガーデンホスピタル		200	0	0	200	0	0
8	医療法人社団 史世会 町田胃腸病院		0	0	50	50	0	0
9	医療法人社団 三医会 鶴川記念病院		0	120	60	180	0	0
10	医療法人財団 明理会 鶴川サナトリウム病院		379	127	81	587	0	0
11	あけぼの病院		0	0	98	98	0	0
12	医療法人社団 鶴川さくら会 鶴川さくら病院		118	0	0	118	0	0
13	一般財団法人 ひふみ会 南多摩整形外科病院		0	78	0	78	0	0
14	医療法人社団 幸隆会 多摩丘陵病院		0	120	196	316	0	0
15	医療社団法人 松友会 上相原病院		0	92	0	92	0	0
16	医療法人社団 創生会 町田病院		0	0	120	120	0	0
17	医療法人社団 天紀会 こころのホスピタル町田		378	0	0	378	0	0
18	社会医療法人社団 正志会 南町田病院		0	0	214	214	34	0
19	医療法人社団 慶泉会 町田慶泉病院		0	88	38	126	0	47
20	ふれあい町田ホスピタル		0	0	199	199	50	0
合計		1,592	899	1,559	4,050	84	47	174

図表 11 町田市内の病院病床数の状況（2014 年度）

2. 市内の医療施設の在宅療養支援診療所・病院の届出状況

2021 年 1 月時点の町田市内における、在宅療養支援診療所・病院の届出状況¹³をみると、届出のあった医療機関は 47 機関あった。その内訳をみると、在宅療養支援診療所を届け出ている医療機関は 40 機関あり、そのうち、支援診 2¹⁴は 17 機関、支援診 3¹⁵は 23 機関だった。また、在宅療養支援病院を届け出ている医療機関は 7 機関あり、そのうち、支援病 2¹⁶は 3 機関、支援病 3¹⁷は 4 機関だった（図表 12）。

#	届出の種類	医療機関名称	医療機関所在地（住所）
1	支援診 2	コンフォート鶴川クリニック	町田市大蔵町 1 5 0 番地 2
2		つくし野駅前クリニック	町田市つくし野二丁目 2 6 番地 4 つくし野第三ビル 2 階 G・F 号室
3		医療法人社団 おおぞら会 つばさクリニック	町田市忠生三丁目 2 5 番 1 1 号 忠生ビル 1-A 号室・3 0 2 号室・3 0 3 号室
4		医療法人社団 たまがわ医院	町田市玉川学園四丁目 1 6 番地 4 0 号 1 階
5		医療法人社団 はなまる会 南町田はなクリニック	町田市鶴間四丁目 5 番 1 号 アネックス南町田 1 階
6		医療法人社団 公朋会 西崎医院	町田市成瀬台三丁目 8 番地 1 8 一階
7		医療法人社団 照幸会 町田南ホームクリニック	町田市南町田五丁目 3 番 2 8 号 1 階
8		医療法人社団 泰大会 薬師台おはなぼっぼクリニック	町田市薬師台一丁目 2 5 番地 1 2 薬師台メディカルテラス
9		医療法人社団 大塚会 訪問医療玉学有床醫院	町田市玉川学園四丁目 1 2 番 2 2 号
10		医療法人社団 大塚会 良藤医院	町田市南大谷 7 4 8 番地 2 1
11		医療法人社団 徳丹会 さぬき診療所	町田市小川二丁目 2 5 番地 1 4 成瀬メディカルヴィレッジ 1 階
12		医療法人社団 楓の風 在宅療養支援クリニックかえでの風	町田市木曽東四丁目 2 6 番 1 5 号 東京町田メディカルビルディング 1 階
13		医療法人社団 平都会 みんなの町田クリニック	町田市原町田六丁目 1 5 番 2 号 RSビル 2 0 1 号室
14		医療法人社団 明日佳 明日佳クリニック鶴川	町田市能ヶ谷四丁目 7 番 1 3 号 リジエール鶴川 B-2 号室
15		栄山医院	町田市金森二丁目 2 5 番 3 0 号
16		成瀬台ホームケアクリニック	町田市成瀬台四丁目 2 3 番地 1 3
17		町田クリニック	町田市旭町三丁目 1 番 1 5 号 旭町メディカルビル 3 階
18	支援診 3	おおくら医院	町田市大蔵町 3 1 6 5 番地 1 0 1 号室
19		グランハート透析クリニック	町田市山崎町 2 0 5 5 番地 2 B-2 0 6
20		はなみ内科	町田市鶴間一丁目 1 9 番 3 5 号 南町田クリニックビル 1 3 0 1
21		まちだファミリークリニック	町田市大蔵町 5 0 0 1 番地 9 SK-II 1 0 1 号室
22		メディカルクリニック悠々	町田市能ヶ谷三丁目 2 番 1 号 リレイス鶴川 2 0 3
23		やまざき整形外科・外科	町田市山崎町 2 0 5 5 番地 2 B-1 0 5
24		医療法人 泉心会 宮崎クリニック町田	町田市金森三丁目 2 3 番 1 号
25		医療法人社団 宏恵会 牧内科医院	町田市山崎町 1 9 2 1 番地 1
26		医療法人社団 幸益会 川村クリニック	町田市本町田 2 9 4 3 番地 1 マンション・サンライズビル 2 0 1 号
27		医療法人社団 三翔会 おか脳神経外科	町田市根岸町 1 0 0 9 番地 4
28		医療法人社団 山口小児クリニック	町田市野津町 1 3 6 4 番地
29		医療法人社団 仁徳会 しながわ内科・循環器クリニック	町田市山崎町 3 3 3 番地 1
30		医療法人社団 中村クリニック	町田市木曽東三丁目 2 0 番 2 8 号
31		医療法人社団 天恵会 敬愛クリニック	町田市忠生四丁目 5 番 1 0 号 ウェルストーンアネックス 1 階
32		学園ハートクリニック	町田市玉川学園一丁目 2 1 番 1 5 号
33		玉川学園土屋クリニック	町田市南大谷 2 1 9 番地 2 3
34		原町田さわだ内科・泌尿器科	町田市原町田六丁目 2 9 番 3 号 新原町田クリニックビル 1 0 2 号室
35		成瀬はやし耳鼻咽喉科	町田市小川二丁目 2 5 番地 1 4 成瀬メディカルビル 2 階
36		青木医院	町田市相原町 8 1 0 番地
37		増子クリニック	町田市能ヶ谷七丁目 1 1 番 5 号
38		南多摩クリニック整形外科・内科・リハビリテーション科・麻酔科	町田市木曽西三丁目 2 0 番地 6 1 階
39		南町田ペンギン在宅診療所	町田市鶴間四丁目 5 番地 8
40		豊川小児科内科医院	町田市つくし野二丁目 1 8 番地 1 8
41	支援病 2	医療法人社団 慶泉会 町田慶泉病院	町田市南町田二丁目 1 番 4 7 号
42		医療法人社団 三医会 鶴川記念病院	町田市三輪町 1 0 5 9 番地 1
43		医療法人社団 創生会 町田病院	町田市木曽東四丁目 2 1 番 4 3 号
44	支援病 3	あけぼの病院	町田市中町一丁目 2 3 番 3 号
45		ふれあい町田ホスピタル	町田市小山ヶ丘一丁目 3 番地 8
46		医療法人社団 史世会 町田胃腸病院	町田市旭町一丁目 1 7 番 2 1 号
47		一般財団法人 ひふみ会 まちだ丘の上病院	町田市小野路町 1 1 番地 1

図表 12 町田市内の医療機関の在宅療養支援診療所・病院の届出状況（2020 年度）

¹³ 厚生労働省関東信越厚生局「届出受理医療機関名簿（令和 3 年 1 月時点）」

¹⁴ 支援診 2 とは、在宅療養支援診療所のなかで、複数の医療機関と連携して基準（看取り数など）を満たしている診療所

¹⁵ 支援診 3 とは、在宅療養支援診療所の基準を満たす診療所

¹⁶ 支援病 2 とは、在宅療養支援診療所のなかで、複数の医療機関と連携して基準（看取り数など）を満たしている病院

¹⁷ 支援病 3 とは、在宅療養支援診療所の基準を満たす病院

#	届出の種類	医療機関名称	医療機関所在地（住所）
1	支援診 2	つくし野駅前クリニック	町田市つくし野二丁目26番地4 つくし野第3ビル2階
2		たまがわ医院	町田市玉川学園四丁目16番地40号 1階
3		栄山医院	町田市金森二丁目25番30号
4		町田クリニック	町田市原町田四丁目15番13号 サンウッド町田4階
5		東京西クリニック	町田市小山ヶ丘三丁目2番13号2A号
6		大町訪問クリニック	町田市小川四丁目15番地20 末広コーポ105号
7		さぬき診療所	町田市小川二丁目25番地14 成瀬メディカルビレッジ1階
8		西嶋医院	町田市成瀬台三丁目8番地18
9		コンフォート鶴川クリニック	町田市大蔵町150番地2
10		町田南ホームクリニック	町田市鶴間684番地1 1階
11		楓の風 在宅療養支援クリニックかえでの風	町田市木曽東四丁目26番15号 東京町田メディカルビルディング1階
12	支援診 3	学園ハートクリニック	町田市玉川学園一丁目21番15号
13		ブラチナクリニック	町田市原町田六丁目10番15号 新光町田ビル5階
14		木下内科胃腸科	町田市高ヶ坂三丁目7番11号
15		おか脳神経外科	町田市根岸町1009番地4
16		牧内科医院	町田市山崎町1921番地1
17		しながわ内科・循環器クリニック	町田市山崎町333番地1
18		青木医院	町田市相原町810番地
19		おくら医院	町田市大蔵町3165番地 101号室
20		つばさクリニック	町田市忠生三丁目25番11号 忠生ビル302号
21		敬愛クリニック	町田市忠生四丁目5番10号 ウエルストン アネックス 201
22		南町田はなクリニック	町田市鶴間1012番地6 アネックス南町田1階
23		いのうえ内科クリニック	町田市鶴間一丁目18番地13 南町田駅前診療館2階
24		とくとみ内科消化器科医院	町田市南成瀬一丁目19番地4
25		玉川学園土屋クリニック	町田市南大谷219番地23
26		良藤医院	町田市南大谷748番地21
27		メディカルクリニック 悠々	町田市能ヶ谷三丁目2番1号 リレイス鶴川203
28		川村クリニック	町田市本町田2943番地1 マンション・サンライズビル201
29		中村クリニック	町田市木曽東三丁目20番28号
30		木曽診療所	町田市木曽東四丁目21番37号
31		薬師台おはなぼっクリニック	町田市薬師台一丁目25番地12 薬師台メディカルテラス
32		宮崎クリニック町田	町田町田市金森三丁目23番1号
33		町田内科クリニック	東京都町田市真光寺一丁目20番1号
34	支援病 2	鶴川記念病院	町田市三輪町1059番地1
35		町田慶泉病院	町田市小川1546番地2
36	支援病 3	町田胃腸病院	町田市旭町一丁目17番21号
37		伊藤病院	町田市原町田四丁目27番33号
38		ふれあい町田ホスピタル	町田市小山ヶ丘一丁目3番地8

図表 13 町田市内の医療機関の在宅療養支援診療所の届出状況¹⁸（2014 年度）

¹⁸ 厚生労働省関東信越厚生局「届出受理医療機関名簿（平成 28 年 6 月時点）」

第4章 全死亡者と異状死の状況

本章では、死亡小票分析をもとに全死亡者と異状死の状況を分析した。

1. 死亡場所別死亡者数の推移

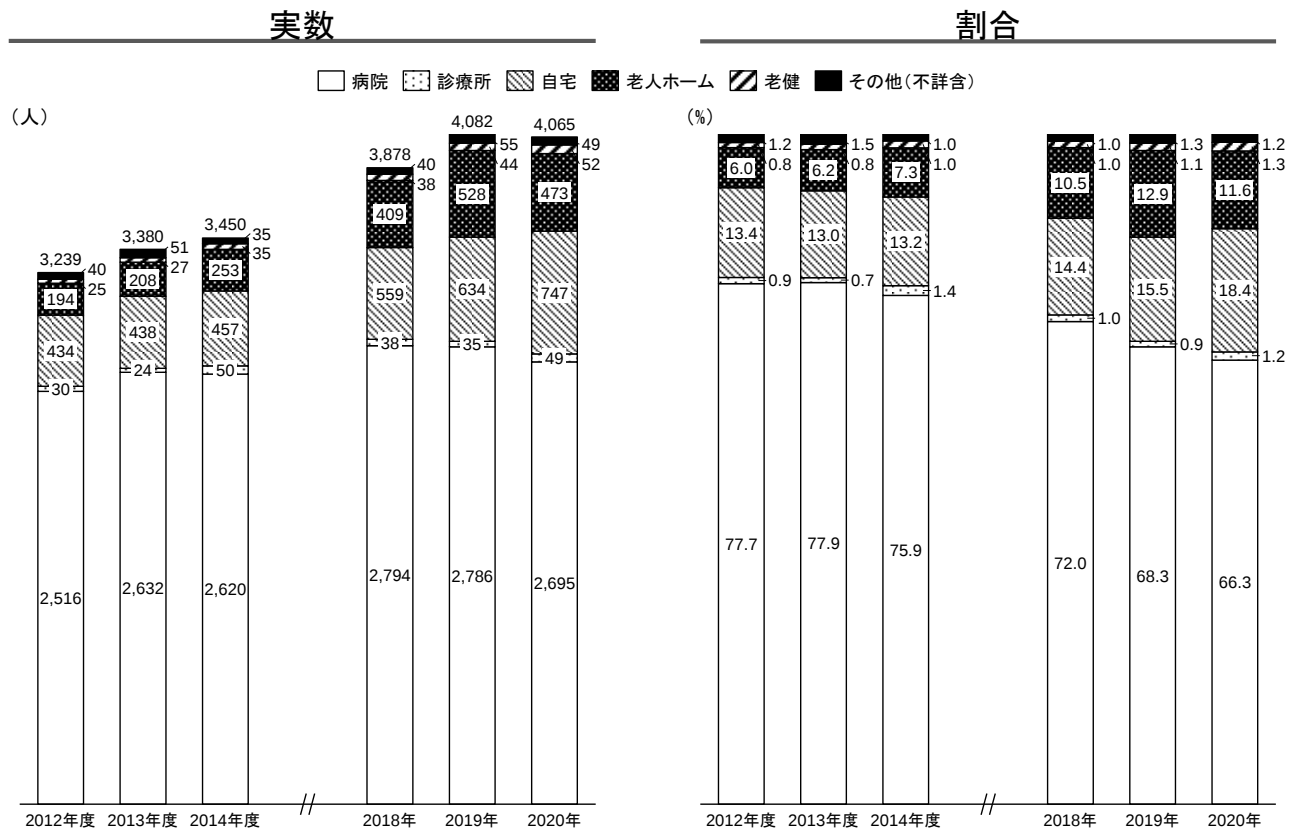
2020 年の死亡者の総数は 4,065 人だった。2012 年度～2014 年度、2018 年～2019 年にかけては増加傾向にあったが、2019 年から 2020 年にかけては微減した。

死亡場所別の死亡者数は、2012 年度～2014 年度にかけては、ほとんどの死亡場所で増加傾向にあったが、2019 年から 2020 年にかけては、自宅と老健を中心に増加した。

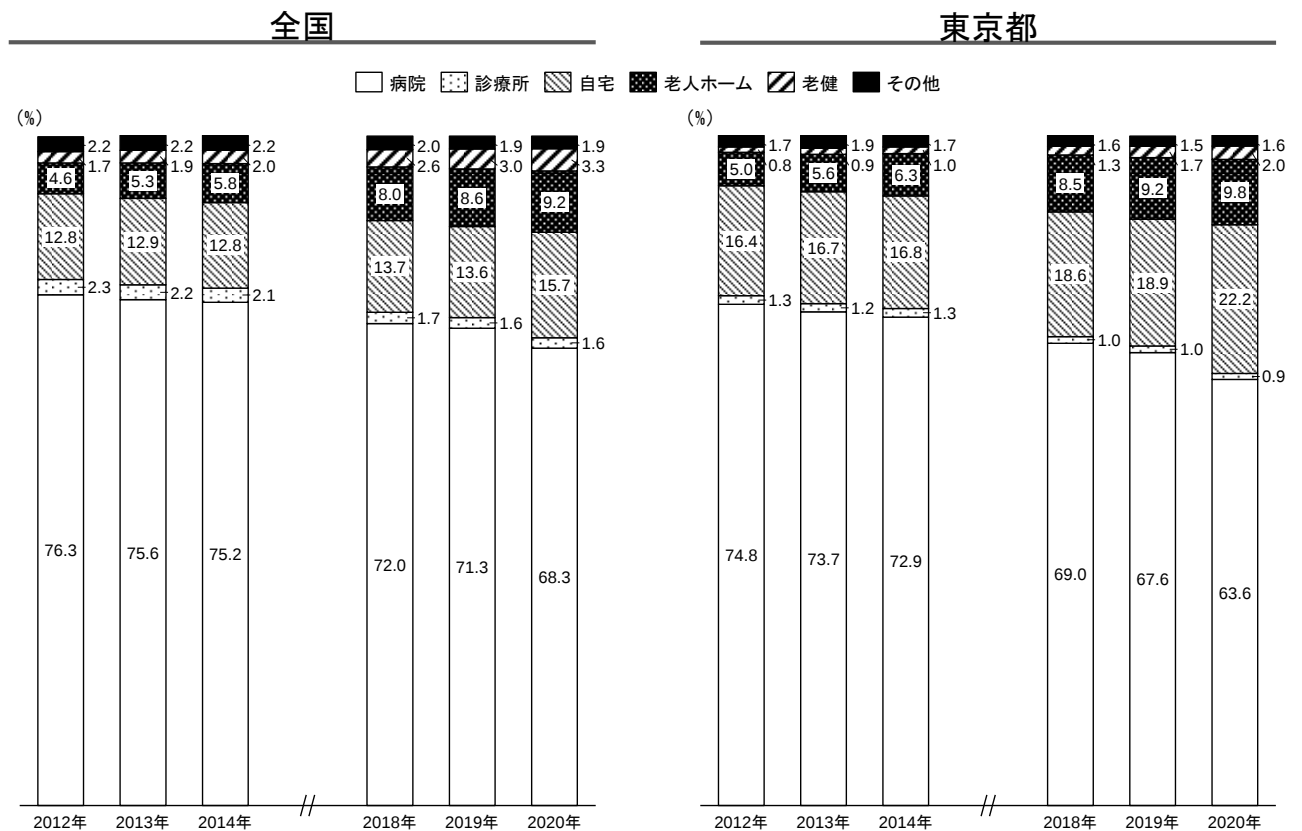
死亡場所別の死亡者数の割合は、病院での死亡割合は 2012 年度から 2014 年度は 75%超で推移していたのが、2018 年から 2020 年にかけて 72.0%から 66.3%まで低下した。一方で自宅と老人ホームの割合は増加傾向にあり、特に老人ホームの割合は、2012 年度～2014 年度から 2018 年～2020 年にかけて 6.0%から 11.6%へと倍増した（図表 14）。

また、全国と東京都¹⁹との比較では、全国と比較すると自宅・老人ホーム合せた看取りの割合が高くなっている一方で、東京都の比較では自宅・老人ホームを合せた看取りの割合が低くなっている（図表 15）。

¹⁹ 厚生労働省「人口動態統計」



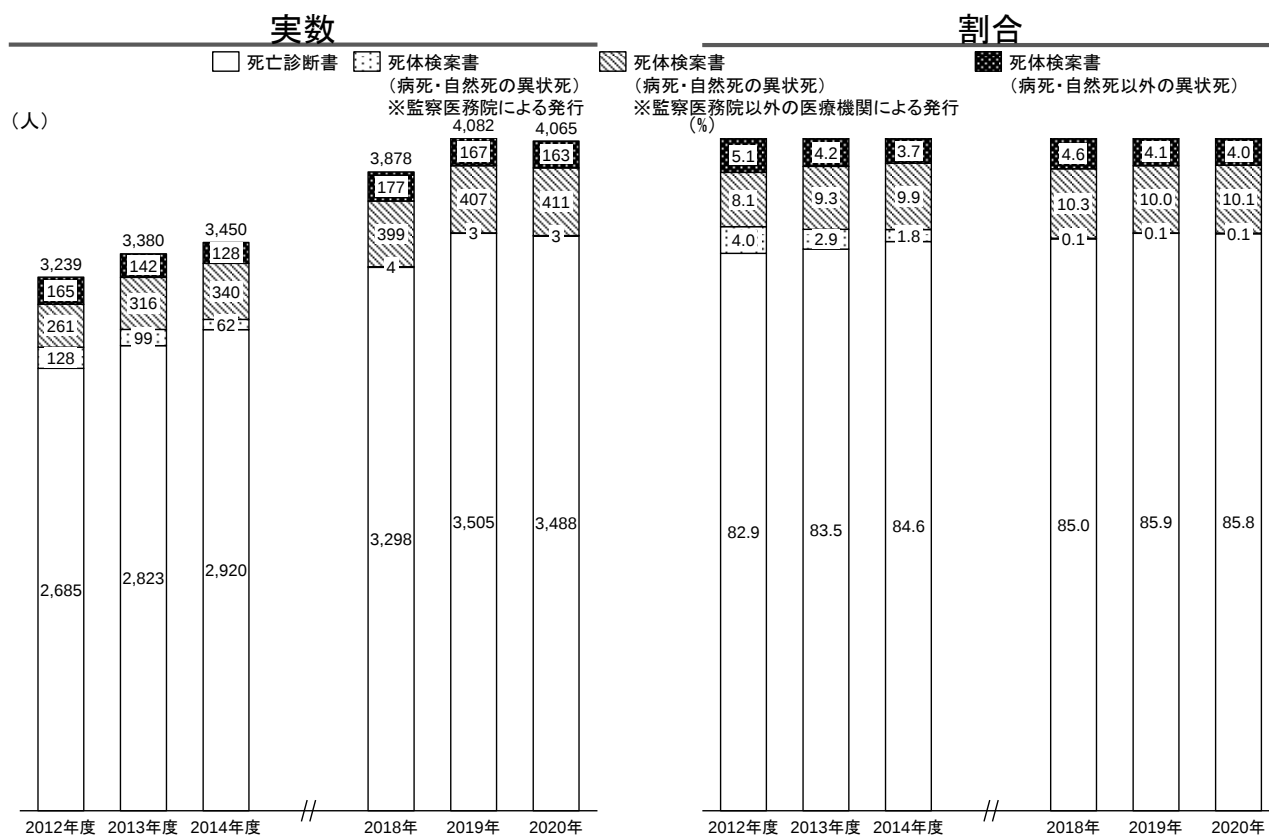
図表 14 死亡場所別死亡者数の推移



図表 15 (参考) 全国および東京都の死亡場所別死亡者数割合の推移

2. 異状死の状況

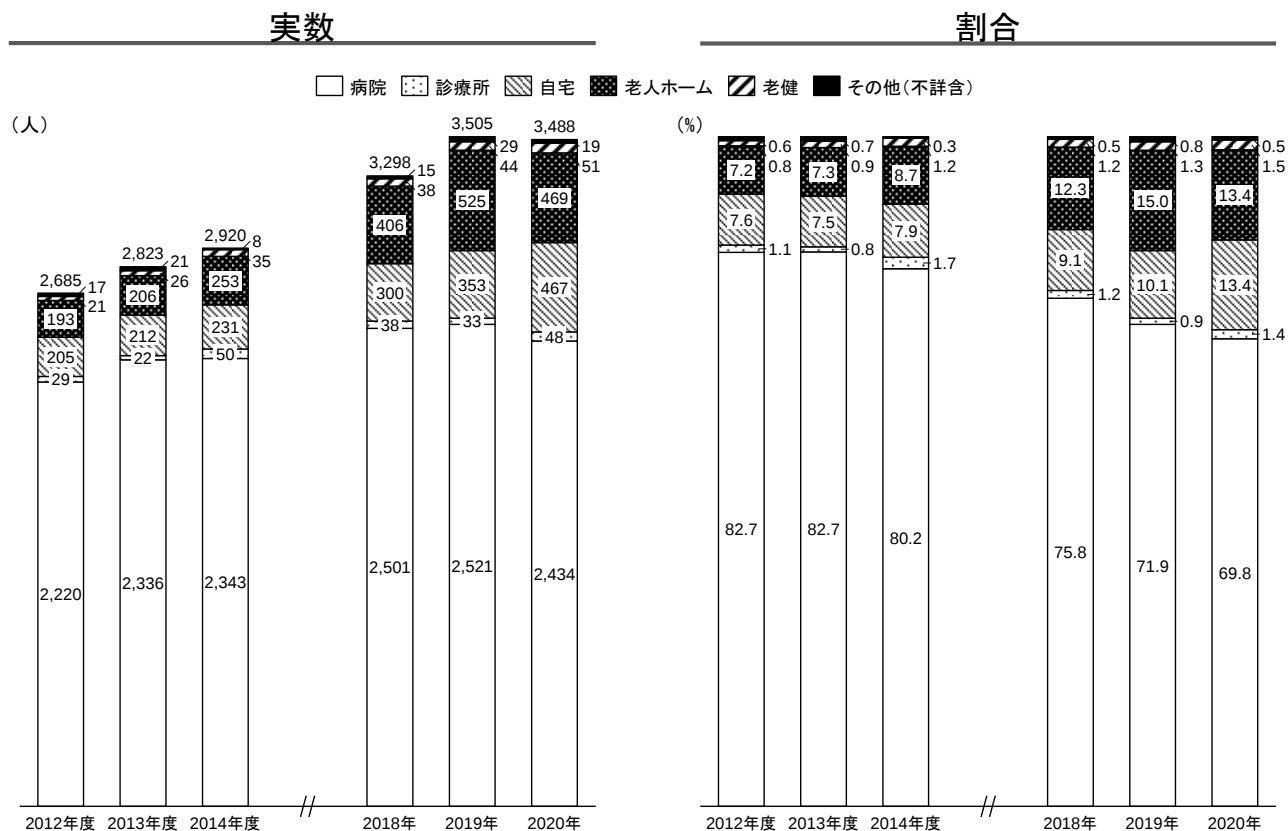
異状死（死体検案書発行）の状況をみると、死体検案書発行は約 15%、死亡診断書発行の割合は 85%前後で推移しており、経年での大きな変化はみられない（図表 16）。



図表 16 異状死の状況の推移

3. 看取り死の推移

看取り死（死亡診断書発行）数は、2012年度～2014年度、2018年～2019年にかけて増加してきたが、2019年～2020年は微減した。場所ごとにみると、2012年度～2014年度は看取り場所ごとの割合に大きな変化は見られなかったが、2012年度から2020年にかけては病院の割合が82.7%から69.8%に減少、一方で自宅が7.6%から13.4%、老人ホームが7.2%から13.4%に増加した（図表17）。



図表 17 看取り死の推移

第5章 看取りの実態

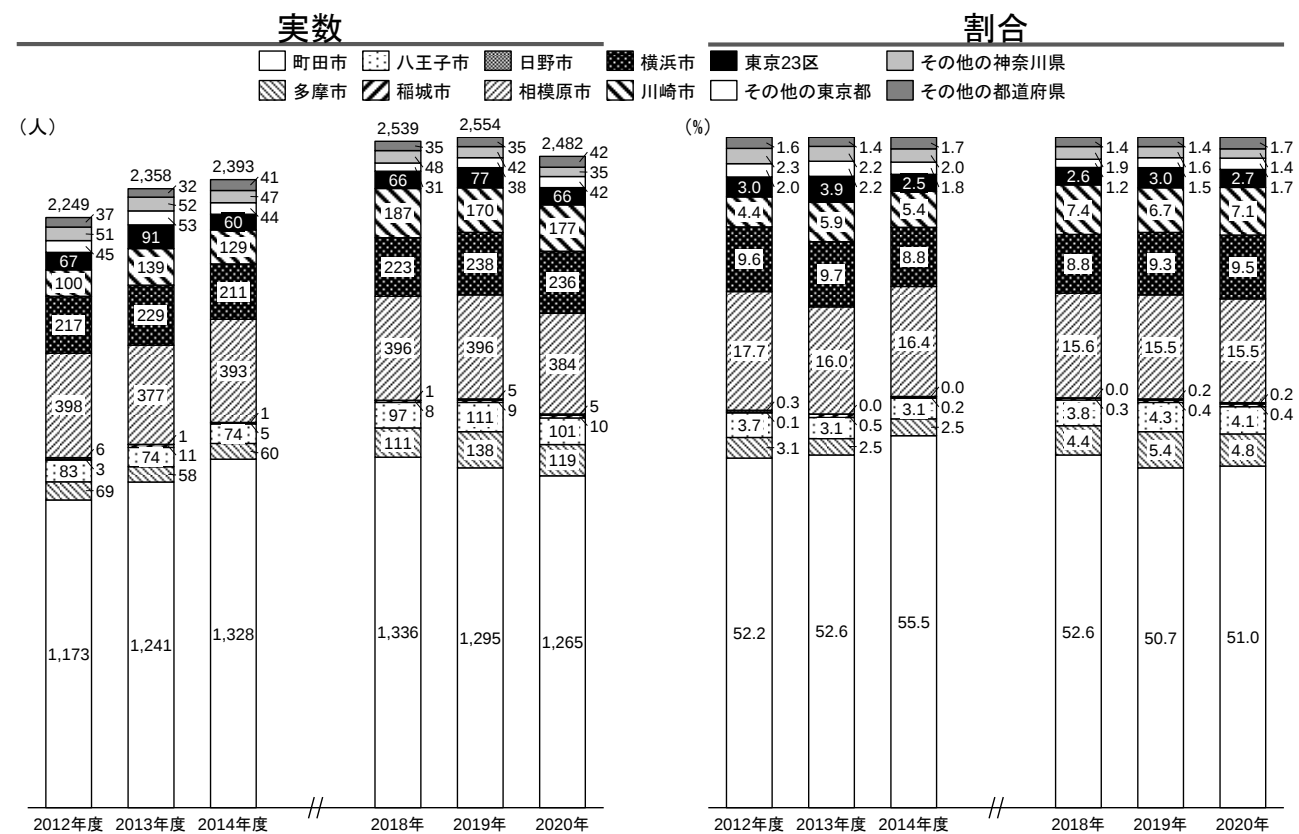
本章では、死亡小票分析をもとに、看取り死の分析を行った。

1. 医療機関での看取り

本節では、医療機関での看取りの分析を行った。

(1) 看取りを行った医療機関の立地

看取りを行った医療機関の立地ごとの件数は、町田市が全体の約 50%を占め最も多く、それに次いで相模原市、横浜市だった。2012 年度～2014 年度から 2018 年～2020 年にかけて、町田市の割合が 54%前後から 52%前後へ低下、一方で川崎市が 5 %前後から 7 %前後、多摩市が 3 %前後から 5 %前後へそれぞれ増加した。その他の立地での看取りの割合には大きな変化は見られなかった（図表 18）。



図表 18 医療機関の立地別の看取り件数の推移

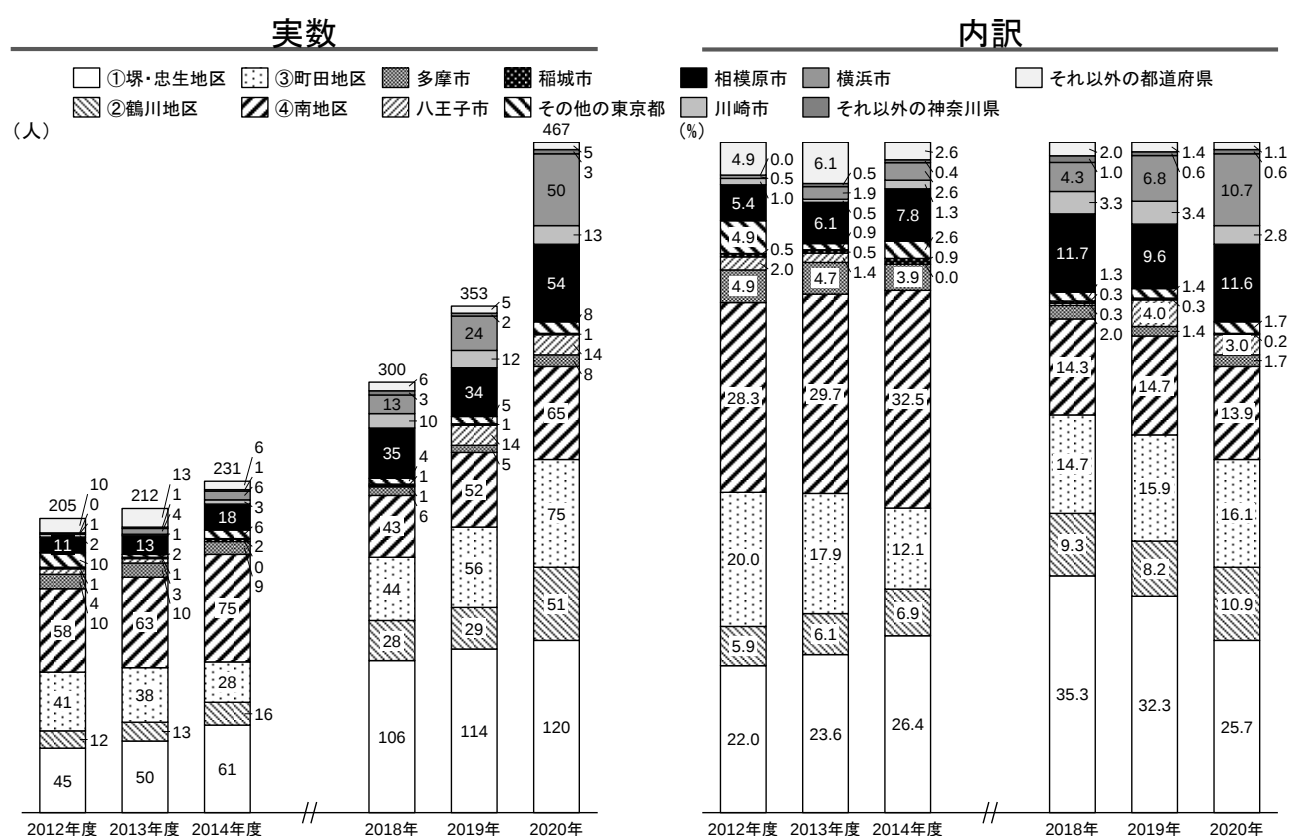
2. 自宅での看取り

本節では、自宅での看取りの分析を行った。

(1) 医療機関の立地別

自宅での看取りをした医療機関の看取り件数を医療機関の立地別にみると、町田市内の比率（①堺・忠生地区～④南地区の合計）は、2012年度～2014年度では約80%で推移していたのが、2018年以降は減少傾向にあり、2020年は約70%まで低下している。一方で、横浜市と相模原市の医療機関による看取り件数の割合が増加傾向にある。

町田市内の各地区の状況では、2012年度～2014年度では南地区がシェア最大だったのに対し2018年～2020年では堺・忠生地区が、減少傾向にあるものの最大となっている（図表19）。



図表 19 看取りをした医療機関の立地別の自宅看取り件数の推移

3. 施設（老人ホーム、老健）での看取り

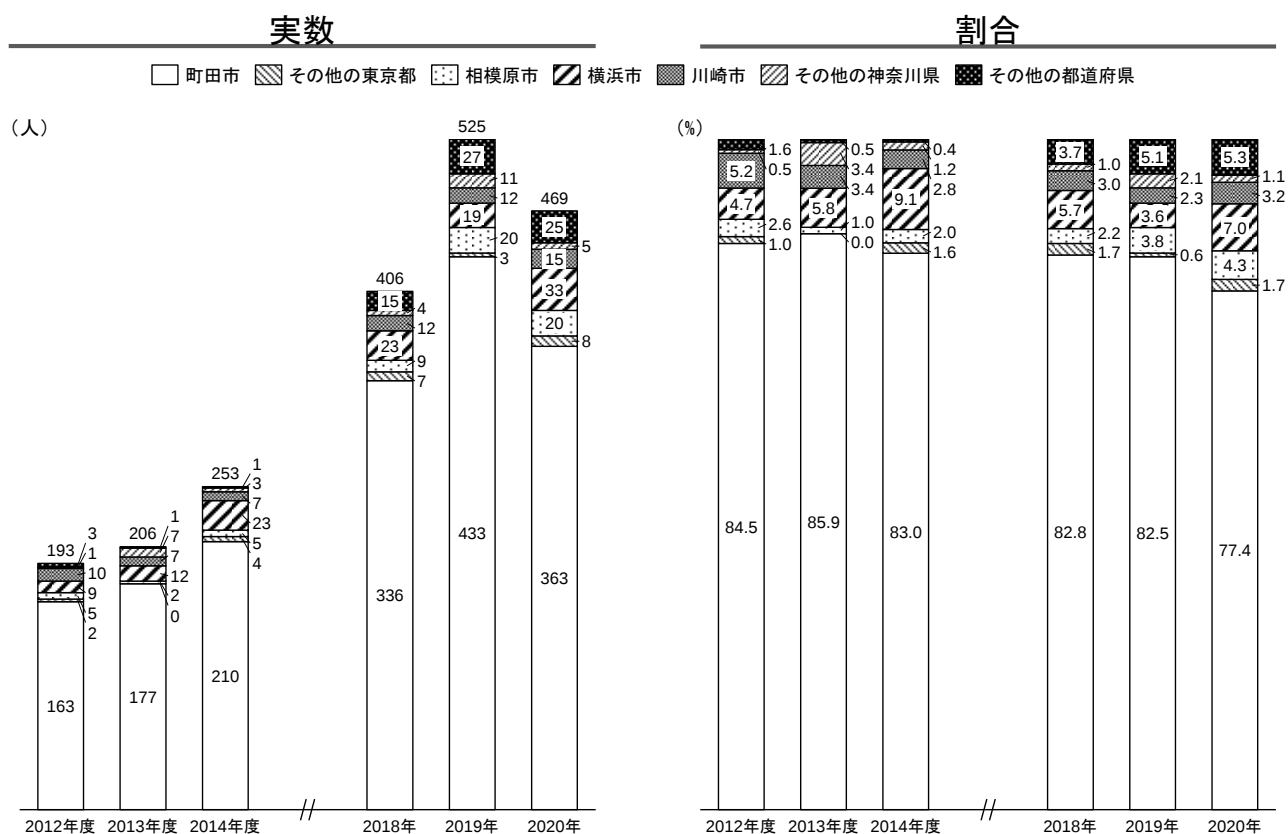
本節では、施設（老人ホーム、老健）での看取りの分析を行った。

（1） 老人ホーム看取り数の推移（老人ホームの立地地域別）

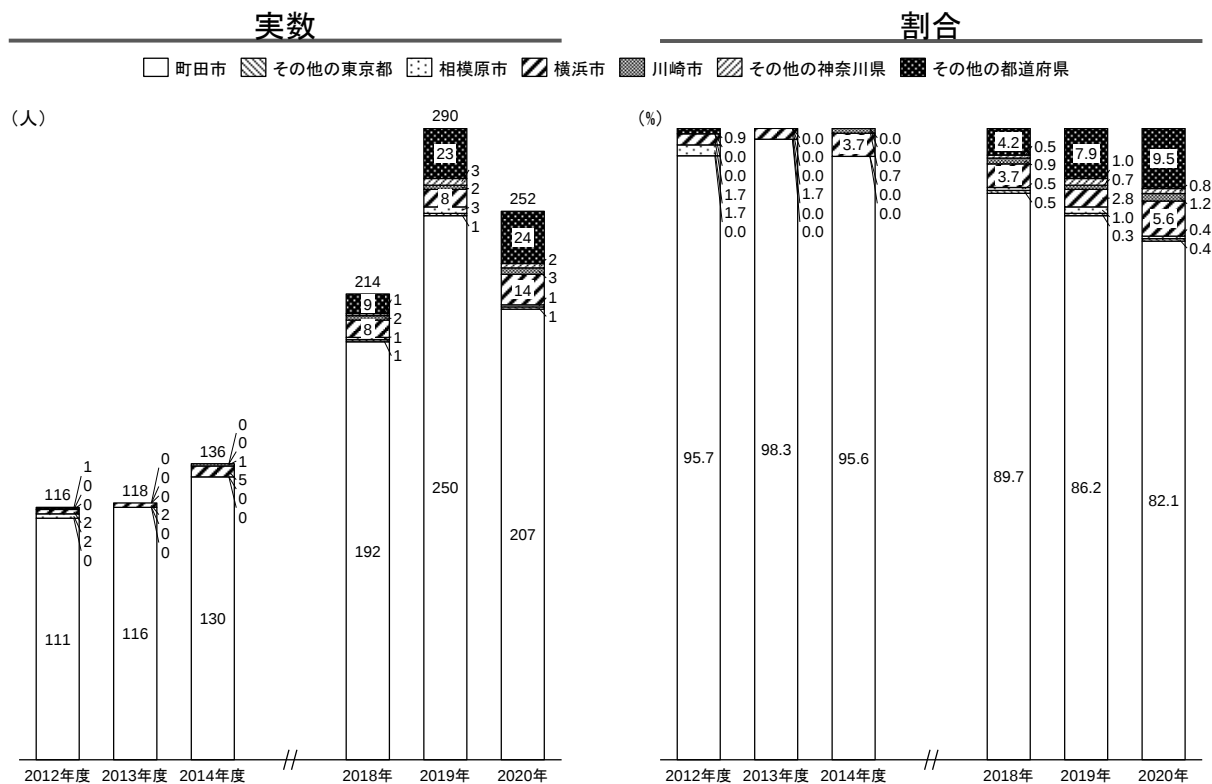
老人ホームでの看取りを老人ホームの立地ごとにみると、町田市内の老人ホームで看取られた割合は、2012年度～2014年度では約85%で推移、2018年～2020年にかけては減少傾向で、約83%から約77%に減少した（図表20）。

特養での看取りでは、町田市内の割合は2012年度～2014年度では100%近い水準で推移していたが、2018年～2020年では約90%から約82%へ減少しており、市外の老人ホームでの看取りの比率が増加しつつある（図表21）

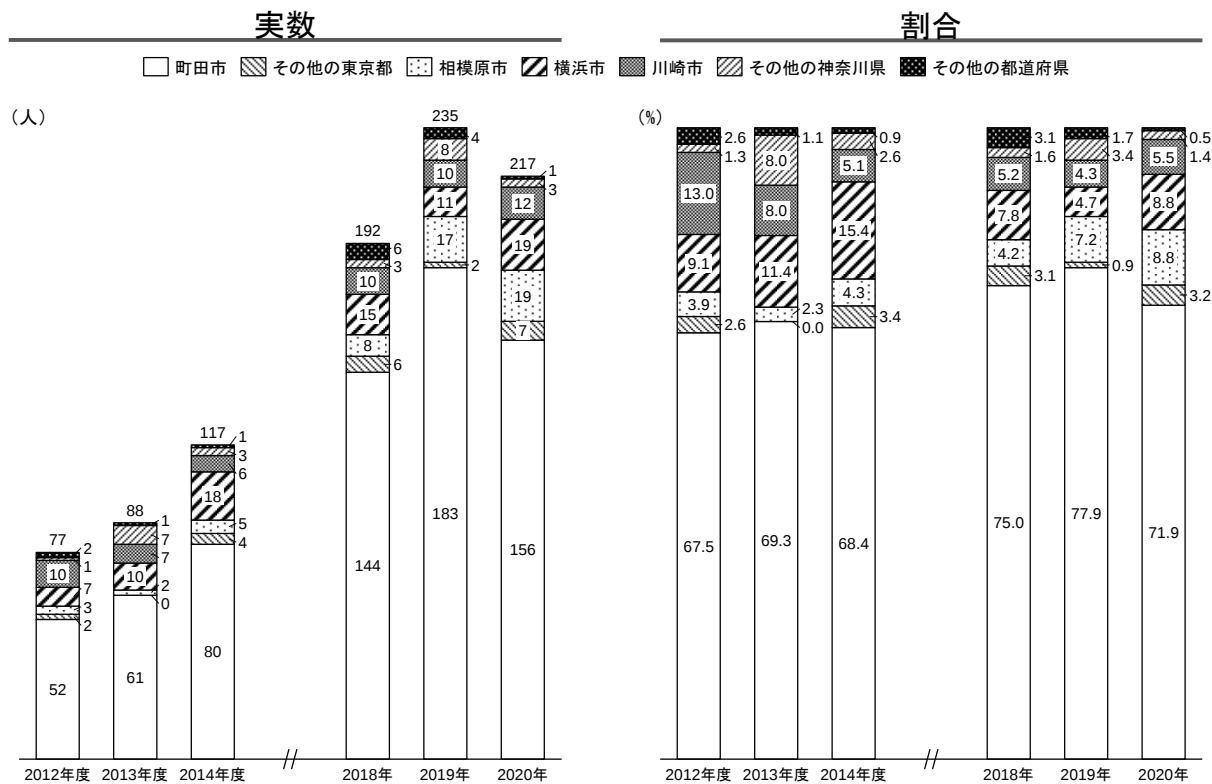
特養以外の看取りでは、町田市内の割合は2012年度～2014年度では約70%で推移、2018年～2020年では約75%で推移した（図表22）。



図表 20 立地別の老人ホーム看取り件数の推移



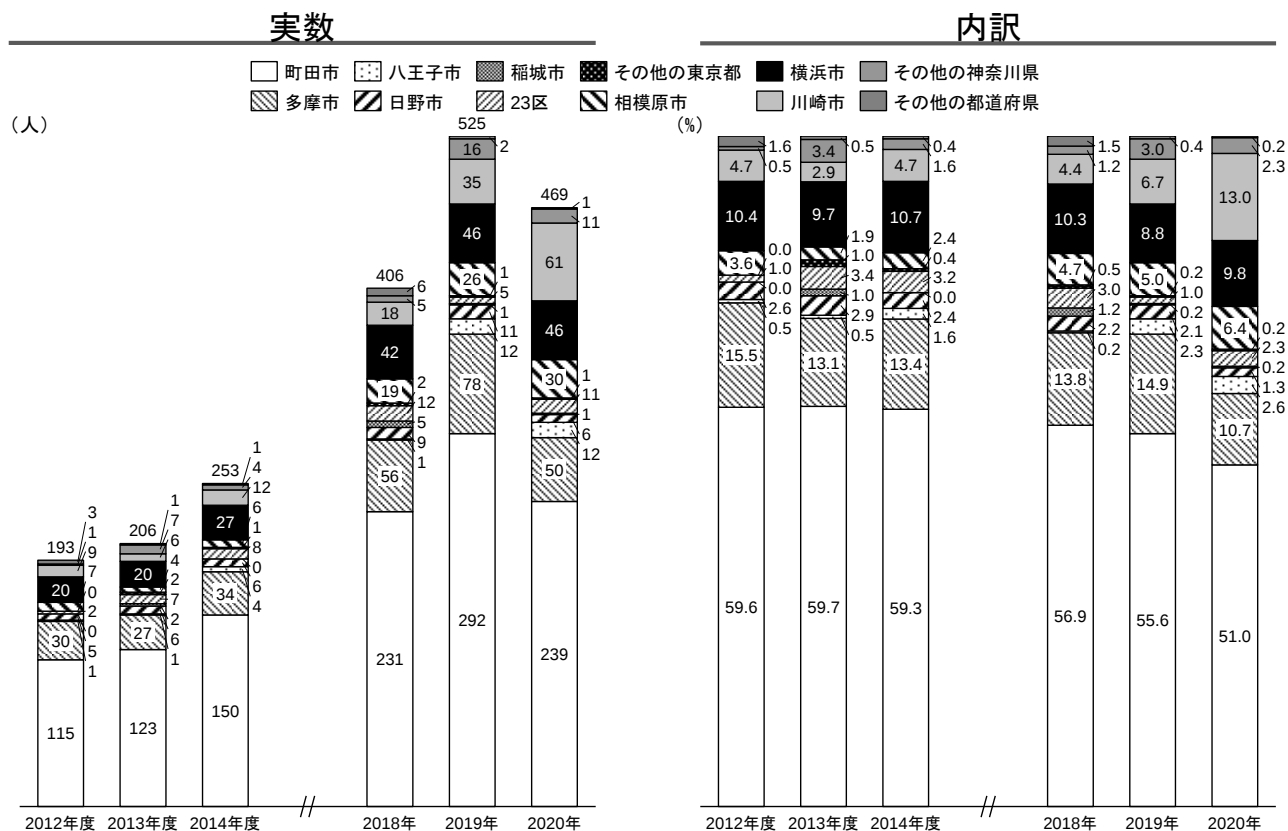
図表 21 立地別の老人ホーム看取り件数の推移（特養）



図表 22 立地別の老人ホーム看取り件数の推移（特養以外の老人ホーム）

(2) 老人ホーム看取りを行った医療機関の立地

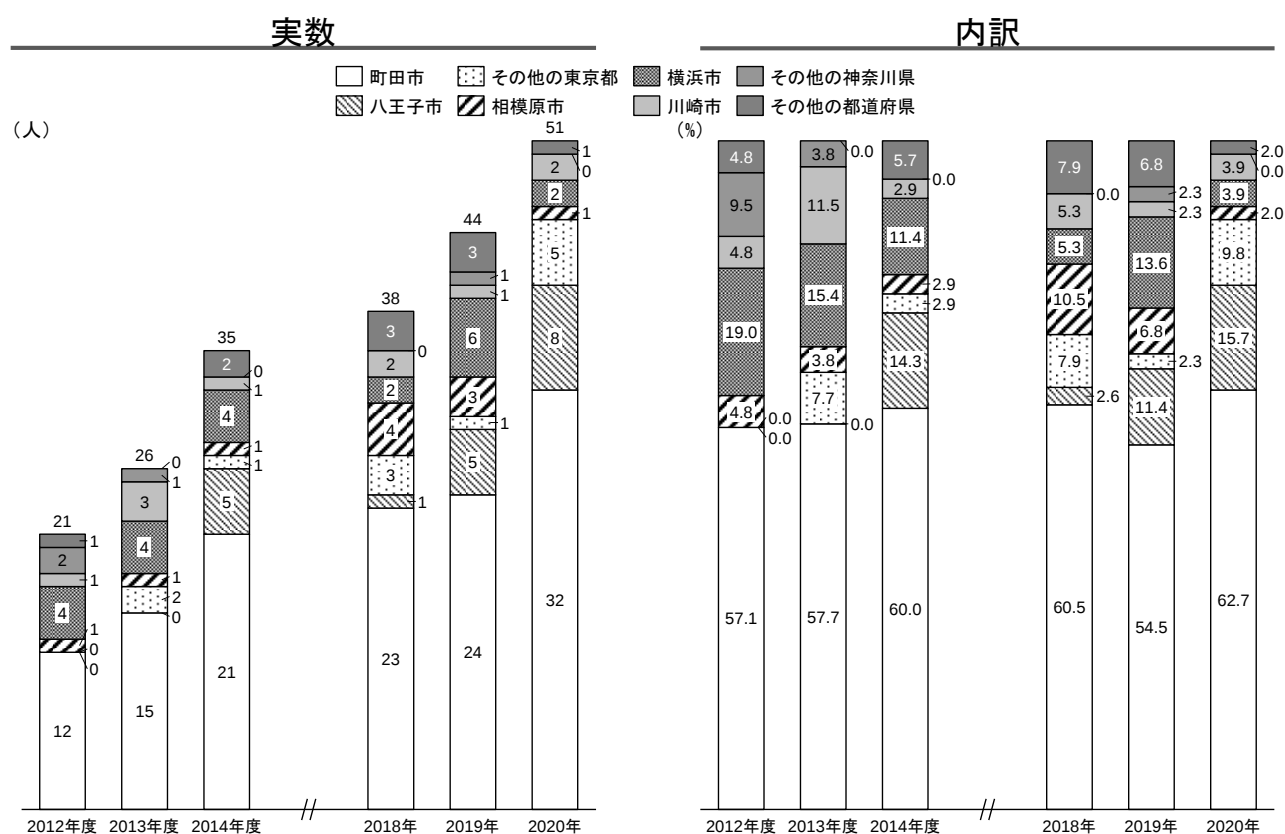
老人ホームでの看取りを行った医療機関の立地ごとにみると、町田市内の医療機関が看取った割合は、2012年度～2014年度では約60%で推移、その他の地域での割合も大きな変化なく推移していた。一方、2018年から2020年にかけては、町田市内の割合が約57%から約51%へ減少、川崎市の割合が約4%から約13%へ増加した（図表23）。



図表 23 看取りを行った医療機関の立地ごと老人ホーム看取り件数の推移

(3) 老健看取り件数の推移（老健の立地別）

老健での看取り数は、2012 年度以来増加傾向にあり、2020 年は 2012 年度の 2.4 倍となった。老健の立地ごとでは、町田市内の看取りの割合は 60%前後で推移、その他の地域の比率には傾向は見られなかった（図表 24）。



図表 24 所在地別の老健看取り件数の推移

第6章 将来死亡者数推計と在宅医療の提供体制

本章では、町田市における死亡場所別の死亡者数の推計、また将来において必要となる在宅医療の提供体制の試算を行った。

1. 推計の考え方

町田市の将来人口推計をもとに国立社会保障・人口問題研究所が公開している生残率を用いて町田市における将来の死亡者数を算出、その上で今回の死亡小票分析の結果を用いて、死亡場所別（自宅・施設、医療機関、その他の場所）ごとの看取り死数、異状死数を推計した。

2. 推計における前提条件

死亡場所別の死亡者数は以下のような仮定を置いて推計した。

●異状死

全死亡に対して一定の頻度で発生すると仮定し、2018年～2020年にかけての各年の発生頻度の平均値（2018年14.96%、2019年14.14%、2020年14.19%）を算出、その上で異状死の発生頻度を14.43%と仮定した。

●看取り死の総数

全死亡者数から異状死を除いた値を看取り死の総数とした。

●看取り死：医療機関

病床数の増減がないと仮定し、医療機関での看取り数の直近の実績値である2020年の実績値2,482人を将来における医療機関での看取り件数とした。

●看取り死：その他の場所

異状死を除いた全死亡に対して一定の頻度で発生すると仮定し、2018年～2020年にかけての各年の発生頻度の平均値（2018年0.45%、2019年0.83%、2020年0.54%）を算出、その上で看取り死の総数に対するその他の死亡の割合を0.61%と仮定した。

●看取り死：自宅・施設

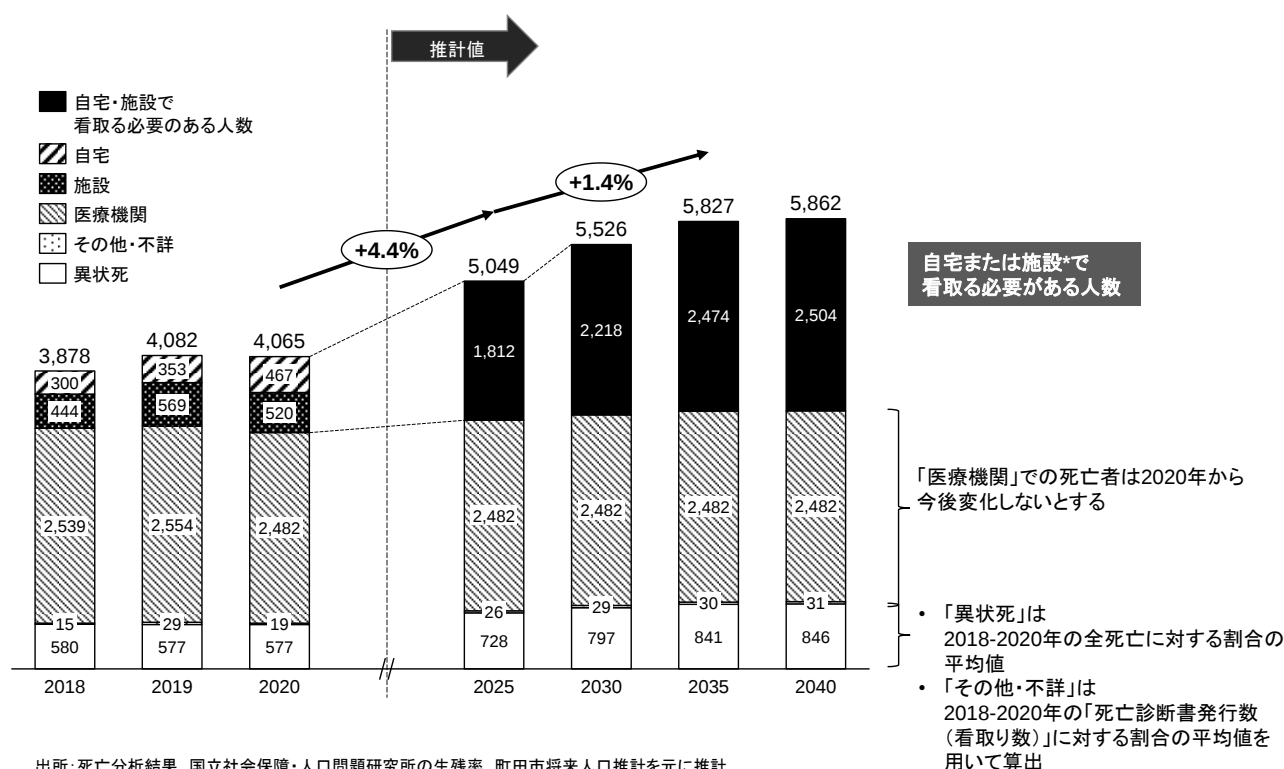
看取り死の総数から、医療機関、その他の場所での看取り数を除いた値を自宅・施設での看取り死数とした。

3. 将来死亡者数推計結果

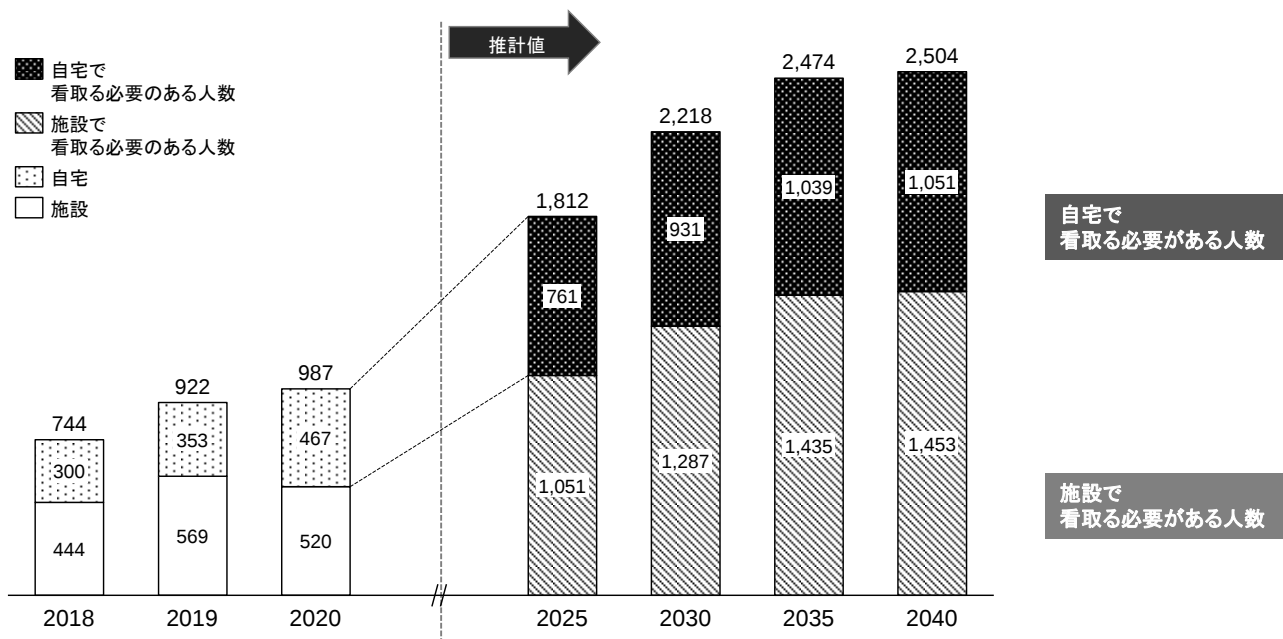
推計によると、町田市の 2025 年の死亡者数は、2020 年の 4,065 人から 984 人増加し 5,049 人になると見込まれている。その後、2035 年まで年率 1.4%で増加し 5,827 人に達し、横ばいで推移すると推計されている。

死亡場所別では、自宅・施設での死亡者数は 2020 年の 987 人（自宅 467 人+施設 520 人）から、2025 年には 1,812 人まで増加すると推計されており、825 人分の看取りを自宅・施設で追加的に行える体制を整備することが必要となる。また 2040 年には 2,504 人まで増加すると推計され、2020 年よりも 1,517 人分の看取りを追加的に行う必要がある（図表 25）。

将来的に必要な自宅・施設での看取り数は、現状の自宅・施設での看取り数の比率が将来においても一定（自宅・施設での看取り数の比率が 2018 年～2020 年の平均値のまま推移）だと仮定した場合、2025 年では自宅で 761 件（2020 年比 296 件増）、施設で 1,051 件（同 531 件増）、2040 年では自宅で 1,051 件（同 584 件増）、施設で 1,453 件（同 933 件増）となる（図表 26）。



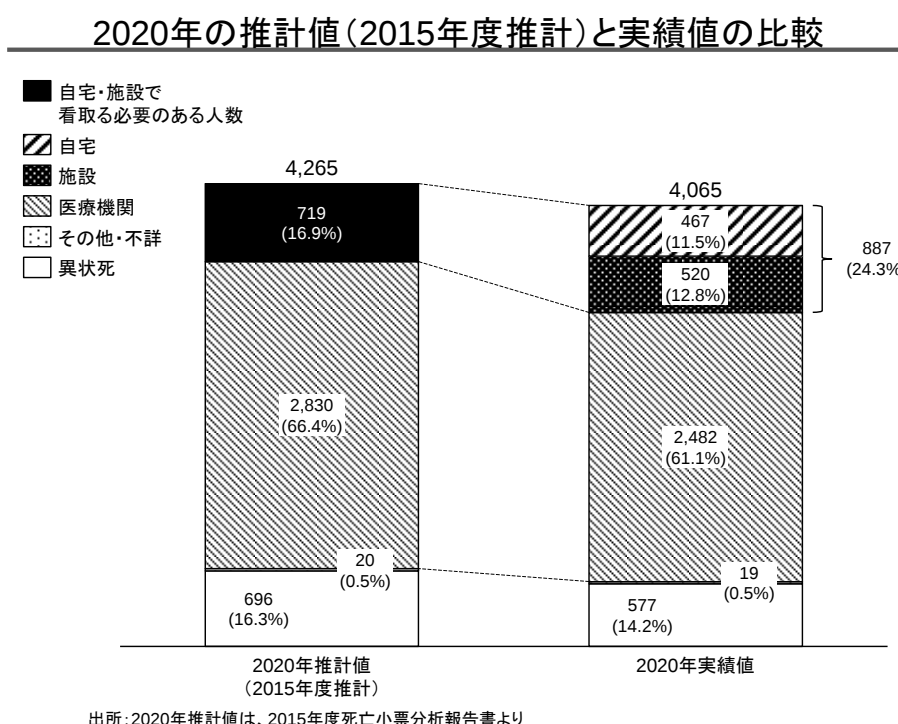
図表 25 死亡場所別の将来死亡者数推計結果



図表 26 自宅・施設での必要看取り数

4. 2015 年度報告書での推計死亡者数との比較

2015 年度報告書での死亡場所別の将来死亡者数推計での 2020 年推計値と、2020 年実績値との比較では、全死亡者数は推計では 4,265 人だったのに対して実績は 4,065 人となり、同程度だった。また全死亡に対する死亡場所別の看取り割合をみると、医療機関での看取りは、推計では 66.4%、実績では 61.1%、自宅・施設は推計では 16.9%、実績では 24.3%だった。2015 年度に想定していたよりも、2020 年実績は医療機関での看取り数が減少し、自宅・施設での看取りが増加したことが分かる（図表 27）。



図表 27 死亡場所別死亡者数の推計値（2015 年度推計）と実績値の比較

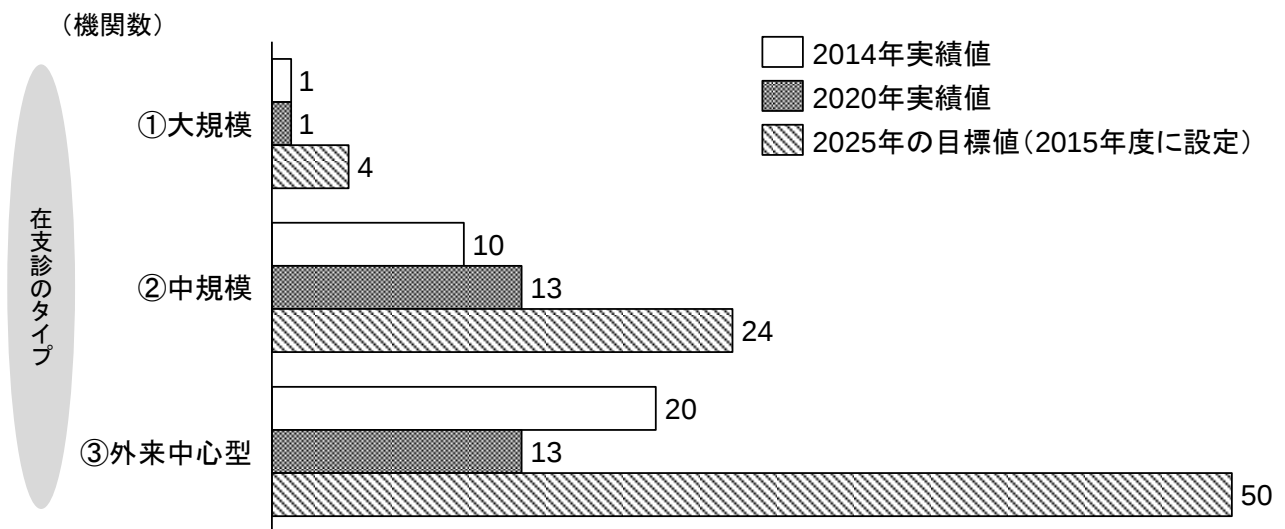
5. 2015 年度報告書で 2025 年の目標とした医療提供体制と 2020 年実績の比較

2015 年度報告書で設定した、在宅医療提供体制の 2025 年の目標値と 2014 年、2020 年の実績値を比較した。比較では、在宅療養支援診療所・病院（在支診・病）を次の 3 種類に分けて集計を行った。①大規模在支診・病（年間 40 人以上の看取り）、②中規模在支診・病（年間 6～39 人の看取り）、③外来中心型在支診・病（年間 1～5 人の看取り）のように分類した。

①大規模在支診・病、②中規模在支診・病、③外来中心型在支診のいずれも、2020 年の実績は、2015 年に設定した 2025 年の目標値に大きく及ばない状況になっていた。①～③のそれぞれの実績値は、①では目標の 25%、②は 54%、③は 26%となっている。

また、2014 年、2020 年の実績値を比較すると、①大規模では同数、②中規模では 3 機関増加、一方で③外来中心型では 7 機関減少していた。在宅療養に係わる医療機関数は 2014 年に 31 機関だったのが、2020 年には 27 機関に減少していた（図表 28）。

2025 年の医療機関数の目標値と 2014 年、2020 年実績値の比較



図表 28 2025 年の医療機関数の目標値と 2014 年、2020 年実績値の比較²⁰

²⁰ 2015 年度報告書では、①大規模は「特化型在支診」②中規模は「併用型在支診」、③外来中心型は「外来型在支診」と表記している

6. 将来必要となる在宅医療提供体制の検討

将来死亡者数推計結果をもとに、2025 年、2040 年に必要な自宅看取り件数に対応するための在宅医療提供体制を検討した。検討に際しては、2020 年に看取りを行った医療機関を、（１）在支診・病であるかどうか、（２）年間の想定看取り件数の２点で類型化し必要数を推計した。

2020 年の実績では、自宅看取りの 467 人中、市外医療機関が 156 人、市内医療機関が 311 人だった。このうち在支診・病による看取りは、①大規模在支診・病（年間 40 人以上の看取り）が 83 人で 1 機関、②中規模在支診・病（年間 6～39 人の看取り）が 188 人で 13 機関、③外来中心型在支診・病（年間 1～5 人の看取り）が 32 人で 13 機関だった。④非在支診・病による看取りは、合計 8 人で 7 機関によるものだった。

将来必要となる在宅医療体制を検討するにあたっては、現状を踏まえ在宅医療に関わる市内の医療機関は 2020 年時点の 34 機関から変わらないとした。その上で、上記①～③のそれぞれに分類される医療機関の数が 2020 年実績から変化しないとした場合に、それぞれに分類される医療機関がどれだけ看取り件数を増やせば必要な看取り数を充足できるのかという観点で検討した。また市外医療機関による看取りは 2020 年の 156 人から変化しないとした。

2025 年、2040 年に必要となる体制は、②中規模在支診・病の医療機関あたりの年間看取り数を現状の 14.5 人/年から 54 人/年に増やす必要があり、たとえ②中規模在支診・病といえども、現状の①大規模在支診・病に近い数の看取りを行う必要がある。（図表 29）。

	①大規模 在宅・病	②中規模 在宅・病	③外来中心型 在宅・病	非在宅の医療機関	市外医療機関
医療機関のイメージ	在宅医療専門型	在宅医療と外来の バランス型	外来中心型	在宅医療を行って おらず、かかりつけ 患者のみ診る機関	
試算での想定医療機関数 (2020年実績)	1機関	13機関	13機関		
	医療機関ごとの看取り数を変化させた箇所				
2020年実績 看取り数467人/年 市内34機関	83人 1機関	188人 13機関 (14.5人/機関)	32人 13機関 (2.5人/機関)		
2025年に必要な体制 (少なくとも761人の看取り) 765人/年 34機関	120人 1機関	416人 13機関 (32人/機関)	65人 13機関 (5人/機関)	8人 7機関	156人
2040年に必要な体制 (少なくとも1,051人の看取り) 1,071人 34機関	140人 1機関	702人 13機関 (54人/機関)	65人 13機関 (5人/機関)		

中規模在宅・病といえども、
現状の大規模在宅・病並の看取りを行う必要

図表 29 必要となる在宅医療提供体制のイメージ (①～③の医療機関数が一定)

第7章 まとめ

- (1) 町田市の死亡者数は2012年度以来増加傾向にあり、2020年は2012年度の3,239人から826人増え、4,065人となった。医療機関での死亡数はほぼ横ばいで推移しており、増加の大半は老人ホームと自宅での死亡となっている。
- (2) 今後、町田市の死亡者数は、2025年には5,049人(2020年比+984人)、2040年には5,862人(2020年比+1,797人)となると推計されている。増加する死亡数をカバーするには、2012年度～2020年にかけて医療機関での死亡数が横ばいで推移してきたことを考慮すると、自宅・施設での看取りを、2025年までに約800人、2040年までに1,500人まで追加的に増やす必要があると考えられる。
- (3) 2020年実績と、2015年度分析での2020年推計値との比較では、自宅・施設の看取りは全死亡に対する16.9%(719件)と推計されていたが、実績では24.3%(887件)となっており、2015年に想定していたよりも自宅・施設での看取りが進んでいることが分かった。
- (4) 仮に自宅看取り件数に対する施設看取りの件数が将来においても2020年の比率と同程度だと仮定すると、今後自宅と施設で必要となる看取り件数は、2025年には自宅761件(2020年比296件増)、施設1,051件(同531件増)、そして2040年には自宅1,051件(同584件増)、施設1,453件(同933件増)となる。

町田市死亡小票分析報告書

2021年10月

編集・発行 町田市 いきいき生活部高齢者福祉課 地域支援係
〒194-8520 東京都町田市森野2丁目2番22号
電話：042-724-2140（直通）